



第12号にあたって

昨年の豪雪とは打って変わり今年は暖冬でした。桜の開花予想も早くなり満開が楽しみです。4月は、新入学で一人暮らしを始めた人、社会人としての第一歩を踏み出した人、会社内を異動した人などでは環境が大きく変わる時期です。規則正しいバランスのとれた食事、十分な睡眠、適度な運動、ストレス発散などで早く新しい環境に慣れるようお願いします。

病気の知識として、4月の新人歓迎会でみられやすい「急性アルコール中毒」と流行の危険性がいわれている「麻しん（はしか）」を取りあげました。

歓迎会などで“イッキ飲み”は、絶対に“しない、させない”ようお願いします。

昨年、ご協力をいただいた窓口アンケート結果も掲載しました。最終ページには、診療時間、交通アクセス、救急疾患検索サイトのアドレスなどが掲載されています。



病気の知識

急性アルコール中毒 “イッキ飲み”は人権侵害。絶対にしない、させない！

- 急性アルコール中毒とは、大量飲酒による意識障害、運動失調や激しいおう吐を伴う状態を言います。
- 血中アルコール濃度が0.4%以上では死に至る危険性が高く、意識障害、血圧低下、激しいおう吐、尿失禁・便失禁などの症状が出てきます。
- おう吐物がのどに詰まり窒息死することがあります。
- ゆっくり飲酒している時には、危険な状態になる前に飲酒を中止できますが、“イッキ飲み”では、中毒症状が出る前に大量に飲酒をしてしまっており重症化します。
- 飲酒経験の少ない若者は適量の飲酒がわからないため、コンパや新人歓迎会などでの“イッキ飲み”が原因で救急搬送される人が多いので絶対やってはいけません。
- 個人差はありますが、日本酒で7合、ワイン（750mL）では2本、ビール中瓶では5本で急性アルコール中毒の危険性が高くなります。適量は日本酒では1合、ビール500mL程度です。



【酔いの四段階】

- 右図のような段階があり、場合により死に至ります。また、おう吐物で窒息する危険性もあります。%数値は血中のアルコール濃度です。

【症状】

- 意識がなくなる、おう吐、言葉が出ない、頭が痛い、どろろ、息苦しさ

【予防】

- “イッキ飲み”は命を奪うこともある人権侵害（アルコール・ハラスメント）なので絶対にしない、させないで下さい。
- アルコールの代謝能力は人それぞれなので自分の適量を知り、その日の体調にも注意して下さい。
- 空腹のときは、飲酒しないで下さい。

ほろ酔い	0.05%	おしゃべりになる、陽気にはしゃぐ、脈が早くなる、判断力が鈍るなど
酩酊	0.1%	足がふらつく、何度も同じことを言う、吐き気、記憶が途切れるなど
泥酔	0.2%	立てなくなる、言葉が支離滅裂、意識がもうろう、激しいおう吐など
昏睡	0.3%	ゆずっても呼んでも反応しない
死亡	0.4%	死の危険がある。

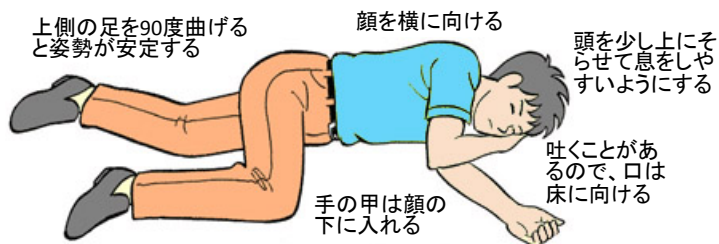
自宅で様子をみる



- 酩酊状態の場合は、一人にしないで慎重に様子を見て下さい。
- おう吐物で窒息しないよう横向きにして下さい。（次図）



- ・激しいおう吐の後、呼びかけても反応しない時は、ためらわずに救急車を呼んで下さい。
- ・泥酔状態で放置するとおう吐物がのどにつまり窒息したり、車にひかれたり、眠り込んで低体温症で死亡するなどの危険性があります。
- ・昏睡状態になるとゆすっても呼んでも反応しなくなり、死の危険性があります。
- ・脳障害で植物人間になることもあります。



麻疹（はしか）

“受診前に医療機関に電話連絡を！”

はしか（麻疹）が世界規模で流行しており、フィリピンでは今年に入り1万2千人以上が感染し、死者も200人以上出ていると国連が先月発表しました。日本は平成27年以後、麻疹の排除状態にあります。海外からの輸入例と輸入例からの感染により、今年に入り220人以上の感染者がでており過去10年で最も多く注意が必要です。



【症状】

- ・麻疹ウイルスによって引き起こされ、咳、高熱、発疹を特徴とする急性の全身感染症です。
- ・伝染力が非常に強く、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染します。
- ・免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続します。
- ・潜伏期は10から12日で、発熱、カタル症状（せき、鼻みず、涙がたくさん出る）で発症します。ほぼ粘膜の臼歯に面する部位にコプリック斑（白い粘膜疹で、回りが炎症のため赤くなる）が現れます。
- ・2～3日熱が続いた後、熱が一時下がり、再び39℃以上の高熱と発疹が出現します。
- ・肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人と言われています。
- ・麻疹ウイルスの特効薬はありません。



- ・麻疹は感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみで予防はできません。
- ・合併症も重いものが多いため、麻疹ワクチンの接種を受けることが大切です。

- ・海外渡航を計画している成人でも、り患歴がなく、2回のワクチン接種歴が明らかでない場合はワクチンによる予防接種が推奨されます。
- ・妊娠中に麻疹にかかると流産や早産を起こす可能性があります。妊娠前であれば、2回のワクチン接種歴が明らかでない場合ワクチン接種を受けてください。既に妊娠していればワクチン接種を受けることができないので、麻疹流行時には外出を避けるなどの注意が必要です。

通常時間に病院へ

行く

急患センター等へ

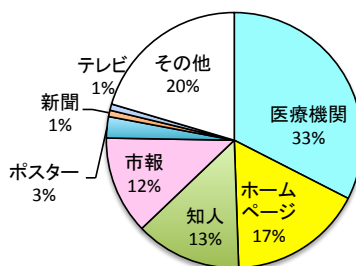
行く

- ・発疹、発熱などの症状では、麻疹の疑いがあることをかかりつけ医または医療機関に電話等で伝え、受診にあたっての注意点を確認してから、その指示に従ってください。
- ・急患診療センターの場合は、受診前に電話連絡をし、受診時には建物内に入らず、玄関の外から到着したことを携帯電話でお知らせ下さい。看護師が出迎え、別建物の専用診察室で対応します。
- ・麻疹の感染力は非常に強いので、医療機関へ移動される際は、周囲の方への感染を防ぐためにもマスクを着用し、公共交通機関の利用を避けてください。
- ・熱は約1週間続きます。とくに消耗の激しい病気ですから、脱水や合併症には注意してください。
- ・解熱後3日を経過するまでは登園、登校はできません

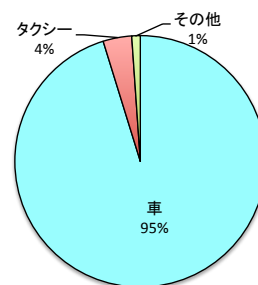
急患診療センター 窓口アンケート結果について

当センターでは、毎年受診された患者さんに窓口アンケートを実施しており、昨年10月10日～24日に実施した結果の一部を紹介します（総受診者数1,510名、回答者数356名、回答率23.6%）
受診のかたわらアンケートにご協力いただいた方に感謝し、今後の急患診療の質の向上に役立たせていただきます。

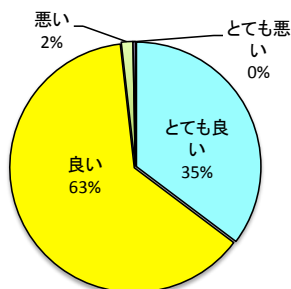
センターを知った方法



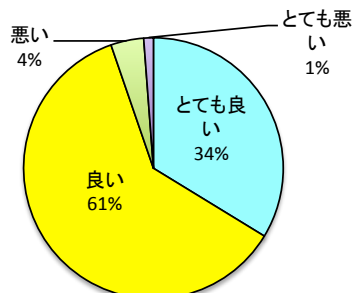
交通手段



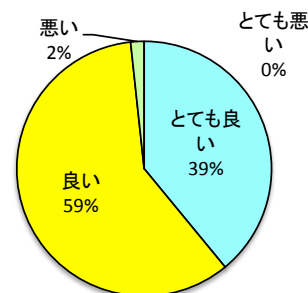
全体の満足度



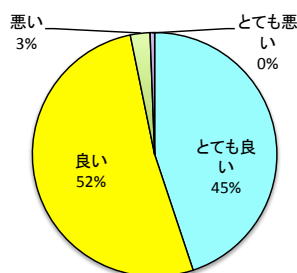
診療が終わるまでの時間



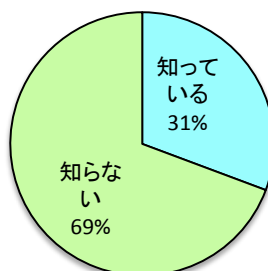
受付・会計の対応



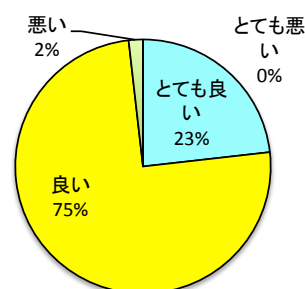
医師・看護師・薬剤師の対応



急患診療センターのホームページ
「急患疾患検索サイト」



ホームページ内の救急疾患検索サイト



Q & A （質問に答えて）

Q：正月に受診したら、具合が悪いのに長時間待たされ大変でした。多くの人で混雑していたので仕方ないと思いますが何とかなりませんか。

A：この冬はインフルエンザが大流行したため、年末年始と1月は混雑し、多い日は1,000人以上、1月は1万人以上の方が受診され大変ご迷惑をおかけしました。スペースが限られ診察室も増やせないことから、受付や会計の工夫をしても今回のようなインフルエンザの大流行には、当センターだけの対応では限界となっています。

できましたら、受診する前に、救急医療電話相談（小児は＃8000、成人は＃7119）、小児救急ハンドブック（新潟市発行、下のQRコードでダウンロードできます）、急患疾患検索サイト（新潟市医師会ホームページ、下記QRコード）、当センターの電話相談等のご利用をお願いします。症状によっては、すぐに医療機関を受診するのではなく、ご家庭で症状に応じた対応をするほうが負担が少なく、より適切な場合もありますのでご利用ください。混雑が予想される5月の10連休でもご協力をお願いします。

小児救急ハンドブック
（新潟市）



救急疾患検索サイト
（新潟市医師会）



小児救急電話相談
＃8000 または 025-288-2525
成人救急電話相談
＃7119 または 025-284-7119

新潟市急患診療センター 025-246-1199

診療時間

★土曜日午後3時～10時の「整形外科」は在宅当番医となります。（在宅当番医は毎回替わりますが、新潟日報土曜日朝刊の紙面、ホームページでは「新潟医療情報ネットの当番医案内」に掲載されます）

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 (受付時間：午後7時～翌日午前6時30分)
	土曜	午後2時～翌日午前9時 (受付時間：午後2時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 (受付時間：午前9時～翌日午前6時30分)
整形外科	平日	午後7時～午後10時 (受付時間：午後7時～午後9時30分)
	土曜(★)	午後10時～翌日午前9時 (受付時間：午後10時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 (受付時間：午前9時～午後9時30分)
外科	平日	診察はしていません
	土曜	午後3時～午後10時 (受付時間：午後3時～午後9時30分)
	日曜・祝日	診察はしていません
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 (受付時間：午前9時～午後5時30分)



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に
市民に信頼される
救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

東日本大震災から、早いもので8年が経ちました。陸前高田市では津波の最大到達地点170kmにわたり、桜の木を10mおきに植樹し、桜ライン311として後世に残そうとしています。桜は年に1回満開となり、後世の人への津波の教訓となるのでしょうか。

新潟市急患診療センター
ホームページ
<http://www.niigata-er.org>



新潟市医師会
救急疾患検索サイト
<http://www.niigata-er.org/search/>



発行：新潟市急患診療センター
〒950-0914
新潟市中央区紫竹山3丁目3番11号
TEL 025-246-1199